
海賊戦隊ゴーカイジャー ー伝説の戦士たちー

商人

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

海賊戦隊ゴーカイジャー ―伝説の戦士たち―

【Nコード】

N3633Y

【作者名】

商人

【あらすじ】

地球を悪の手から守ってきた歴代の超戦士たち……

彼らは宇宙帝国ザンギャクとの激戦により戦う力を失った。

だが、その意思を受け継ぎ地球に降り立ったトンデモナイ奴らがい
た！

その名も海賊戦隊ゴーカイジャー！

彼らは伝説の戦士との出会いにより更に強く成長していく……

この小説はSS投稿掲示板にも投稿しています。

プロローグ

地球は史上最大の危機を迎えていた……

全宇宙を支配しようとする宇宙帝国ザンギヤックの大艦隊が破壊の限りを尽くして人々を恐怖のどん底に陥れていたのだ。

だが地球には、その強大な悪に立ち向かう戦士たちが存在した……愛と夢と平和を守り続けてきた34のスーパー戦隊だ！。

スーパー戦隊とザンギヤックの死闘……

この戦いが世に言うレジェンド大戦である。

スーパー戦隊のリーダーであるアカレンジャーと同じくスーパー戦隊のリーダー格であるビッグワンの二人は孤軍奮闘している後輩の天装戦隊ゴセイジャーの援軍に向かうはずだったのだが彼らの前にザンギヤックの大群が現れ行く手を阻む。

大量のザンギヤック兵、逃げ惑う人々、壊れゆく街をスーパー戦隊として放っておくという選択肢は彼らにはない。

「いかん……このままではゴセイジャーを助けに行けない」

「ザンギヤックめ！……」

「このまま放っておくわけにはいかん。戦うぞ！ビッグワン！」

その時だった！……

アカレンジャーとビッグワンの耳に大地の底から響くような低く凄味のある声が聞こえた。

「そこまでだ！ザンギヤクー！」

「その声は……本郷、いや……仮面ライダー1号か！？」

アカレンジャーとビッグワンが後ろを振り向くと赤い複眼に飛蝗を
思わせる緑色の顔面に赤いマフラーを靡かせる男が立っていた。
そう……

その声の主は仮面ライダー1号だ！

しかし、立っていたのは仮面ライダー1号だけではなかった！
侵略者による魔の手から地球を守ってきた数々の戦士たち……
どの戦士も百戦錬磨の強者たちだ。

「アカレンジャー、ビッグワン、ここは俺たちに任せてゴセイジャ
ーや他のスーパージョーと合流してくれ！」

「わかった！ここは頼む！」

アカレンジャーとビッグワンはこの場を仮面ライダー1号たちに任
せゴセイジャーの救援へ向かうため急ぎ足でこの場を離れる。
残ったのはヒーロー軍団と大量のゴーミンとスゴーミン……

「みんな……行くぞおー！」

『オオオツ！！』

1号の掛け声とともにヒーロー軍団とザンギヤックとの戦いの火蓋
は切って落とされた。

ヒーロー軍団とザンギヤック兵はお互いに敵軍へと突っ込んでいく。

「うえええええええい！！」

「ステインガープレード！！」

まず先陣を切ったのは甲虫がモチーフの青き戦士、仮面ライダー剣とブルービートだ。

剣は醒剣ブレイラウザー、ブルービートはドリル型の武器であるスティンガーブレードでゴーミンとスゴーミンを倒していく。

赤い複眼に西洋の騎士を思わせる仮面ライダー龍騎、ナイト、ゾルダはそれぞれカードを差し込む。

「行くぞ、城戸！」

「っしやあー！」

「全く……何なのよ、こいつら」

「ストライクベント」

「ナステイベント」

「シュートベント」

ナイトは蝙蝠型のモンスターであるダークウイングの発する超音波で敵を攪乱する技であるソニックブレイカーを放ち相手の動きを止める。

龍騎はドラグクローを装備し龍騎の構えに合わせ、龍型のモンスターであるドラグレッダーが敵に火球を放つ技ドラグクローファイヤーを放ち前線の敵を壊滅させ最後はゾルダがシュートベントによって召喚する、マグナギガの両腕を模したゾルダの身長をも上回る巨大な大砲・ギガランチャーを放ち敵を一掃する。

しかし……

ザンギヤック兵の数が一向に減る様子はない。

「エレクトリックファイヤー!!」

緑の大きな複眼に胸の「S」という文字が印象的な仮面ライダー
トロンガーがアームを擦り合わせて地面を叩くと電気エネルギーが
数人のゴーミンとスゴーミンに直撃する。

一瞬、油断してしまったストロンガーをスゴーミンが襲う。

「ライナーブラストオオオオオ!!」

だが……

ストロンガーを襲おうとしたスゴーミンを金色のアーマーを身に纏
ったビーファイターカブトの必殺技がスゴーミンを粉碎する。

「嵐旋風斬り!!」

「磁光真空剣・真つ向両断!!」

怪鳥を思わせる変身忍者・嵐と古から伝わる戦闘スーツを着た忍者
である磁雷矢の剣がゴーミンを切り裂いていく。

「リボルクラッシュ!!」

赤い複眼に黒くシャープな黒いボディ、太陽の子こと仮面ライダー
ブラックRXの剣であるリボルケインがスゴーミンの身体を貫く。

「ダガースパイラルチェーン!!」

「烈火炎装!!」

青き西洋の甲冑を纏ったリュウケンドーが光のカノン文字で敵を拘束する技を放つと金色に輝く鎧を纏った騎士である牙狼が緑色の炎を自身愛用の魔戒剣に引火させリュウケンドーが拘束したゴーミンとスゴーミンを一網打尽叩き斬る。

そしてその後ろから牙狼の仲間である銀色と白色の騎士である絶狼の双剣と弾の槍が残りのゴーミンとスゴーミンを始末する。

マントが印象的なヒーローであるカゲスターとベルスターはカゲ車輪、カゲハンマー、影しばりなどの技で敵を翻弄しする。

「俺ってやっぱり、決まりすぎだぜ！」

「何言ってるんだ！？敵はまだいるだろ！」

キラキラと輝くクリスタルのようなボディのシャンゼリオンと緑色の筋肉が勇ましいザ・ブレイダーはコントのようなことをしながら敵を倒す。

「ウオオオオオオオツ！！！」

「キイイイイイイツ！！！」

赤い複眼に緑色と黒を基調とした仮面ライダーギルスと仮面ライダーアマゾンが荒々しい戦闘スタイルでゴーミンとスゴーミンを怯ませる。

「ムーン・ティアラ・ブーメラン！！！」

「ロゼッタ・シェーント！！！」

セーラームーンと仮面天使ロゼッタのダブルブルーメラン攻撃が相手にヒットしていく。

バトルホーク、ビッグホーク、クイーンホークは三兄妹、息の合った攻撃でゴーミンに反撃の余地を与えない。

完全ロボットであるジャンパーソンは相棒のガンギブソンと共にレーザー銃を使いスゴーミンを寄せ付けない。

バイクロッサー・ケン、バイクロッサー・ギンは兄弟連携攻撃でゴーミンとスゴーミンを翻弄する。

「ライダーキイイイック!!」

「スパイラルキック!!」

初代・仮面ライダーの仮面ライダー1号と初代メタルヒーローのギヤバンのダブルキックが一蹴りで何十人ものゴーミン、スゴーミンが崩れ落ち四散していく。

何とかヒーロー軍団は勝利した……

「やったな仮面ライダー1号!」

「ああ!……だが、さすがに俺の体も限界だ。ギヤバン、君は何ともないのか?」

「そんな訳ない。あの激戦で疲れてない奴はいないさ……」

幾ら地球を守ってきた戦士たちと言えど倒しても次から次へと現れ

るゴーミンとスゴーミンたちとの戦いで身体は疲れきっていた。

「! ?」

その時、仮面ライダー1号が見たのは戦士たちのエネルギーがザンギャックの艦隊に放たれている光景だった。

1号はこれをすぐにスーパー戦隊が地球を守るための最終手段を使ったのだと確信した。

「みんな、疲れているだろうがもうひと頑張りだ！俺たちもスーパー戦隊に力を貸すぞ！」

それは戦士としての「戦う力」を失うと言う事だがヒーロー軍団の答えは決まっていた。

戦士としての力を失っても地球を守る。

ヒーロー軍団の全戦士から金色の神々しいエネルギーがザンギャックの艦隊に向けて放たれる。

こうしてザンギャックの戦艦は壊滅し地球の平和は守られたのだ。

つづく

次iiiiiiiiiiiiiiiiiiii回!!

伊狩鎧「アアアアアアアアアアアアッ！もしかしてメルザードと戦ったビーファイターカブトの鳥羽甲平さん! ?」

鳥羽甲平「お前は選ばし者だろ！」

バスコ「待ちくたびれちゃったよ……ところでレンジャーキーは持
つてきてくれたのかな？」

伊狩鎧「はい！お願いします！」

第1話 帰ってきた昆虫戦士

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3633y/>

海賊戦隊ゴーカイジャー ー伝説の戦士たちー

2011年11月9日01時05分発行